



C.T 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2017 年 3 月 6 日～3 月 15 日（10 日間）

I. プログラムについて

実習期間は 10 日間で、他の実習プログラムより期間は短いですが、内容はとても濃いです。台湾に行く前は山本先生に指導して頂き、現地の担当の先生とメールで連絡を取りながら、教壇実習の準備を進めていきます。現地に着いてからは、教壇実習するクラスの授業を見学しつつ、担当の先生と相談して教壇実習の最終準備をします。私たちの場合は、プログラム中に教壇実習が 2 回と現地の先生の前での模擬授業が 1 回ありました。すごく悩むことも多々ありましたが、終わった後の達成感は今でも忘れられません。

大学での授業以外の時間もとても充実しているのが、このプログラムの魅力の一つだと思います。学生のチューターさんたちは、朝宿舎まで迎えに来てくれ、校内の移動、放課後の食事及び夜食の買い出しなど、全てのことを手伝ってくれました。実習中にわからないことや困ったことがあった際には、いつもチューターさんにお世話になっていました。土日の観光の際は、前日の夜にラインで行きたい場所や食べたい物などを聞いてくれた上で、スケジュールを立ててくれたおかげで、とても充実していました。初めはぎこちない部分もありましたが、次第に仲良くなり、別れの際はとても悲しくて泣いてしまいました。今でも SNS で連絡を取っています。海外の友達ができたという点も、このプログラムに参加してよかったと思えることの一つです。



II. 参加希望者へのアドバイス

実習中に一番気を付けなければならないのは、一緒に実習する友達との関係です。教壇実習の前は誰だって緊張し、ナーバスになってしまいます。実習の内容は違って、みんなで成功させるために、お互い気をつかいながら共同生活をするのが成功のカギだと言えます。実習生同士で協力しましょう。

現地に持って行った方がいいものはパソコンです。重いかもしれませんが絶対に持って行くべきだと思います。必ず使います！！

気候はとにかく雨が降ります。私たちが行ったときは 10 日間のうち傘がいらなかったのは 1 日しかありませんでした。そして台湾だからといってそんなに暑くはなく、日本とあまり変わりありません。ただし晴れの日が夏みたいな暑さでした。持って行く服の中に暑さに対応できる服が一つあれば便利だと思います。

最後にお伝えしたいことは、ぜひこのプログラムに参加してみてください。海外で一人教壇に立つのは不安を感じる人が多いと思いますが、期待以上のものを得ることができます。10 日間という短い期間ですが、自分の中の世界が広がり、自信がつき必ず成長することができます！私がそうだったので、自信を持ってお勧めします！！



R.F 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2017 年 3 月 6 日～3 月 15 日（10 日間）

I. プログラムについて

- ・実習期間の予定は、平日は大学で授業見学や教壇実習をさせていただき、土日はチューターさんが台北の観光地を案内してくれました。
- ・授業見学では、様々な先生の授業が見学でき、とても勉強になりました。
- ・教壇実習では、実際に日本語を学ぶ学生の前で授業を行い、とても緊張しましたが、現地の指導教官が細かく指導やフィードバックをしてくれたり、学生さんも積極的に授業に参加してくれるので、やりきることができました。また、授業の時の学生さんの反応やクラスの雰囲気は、普段の模擬授業では体験できないものだと思います。
- ・指導教官の前で 1 人 15 分ずつ模擬授業を行い、厳しい意見も言われましたが実際に普段日本語を教えていらっしゃる先生の視点から指摘していただいたので今後に生かしたいと思いました。
- ・オリエンテーションや学生交流の際にはみなさんいろいろ話しかけてくださるので、緊張がなくなりたくさんの方と話ができて、お互いの国の文化紹介などもでき、知らなかった台湾のことも少し学びました。
- ・国立政治大学は敷地がとても広く、多くの建物と山に沿って長い坂があり学内でバスに乗るのがとても印象的で面白く感じました。
- ・観光の日は、朝から晩まで一日中様々なところへ案内してくださり、少し疲れましたがいい思い出がたくさんできました。

II. 参加希望者へのアドバイス

私は今回、初めての海外で日程も 10 日間あり、最初は参加するか非常に悩みました。しかし、台湾についてから 10 日間があっという間でした。

何回も何回も修正をした教案で教壇実習を行い、それを終えた時の達成感や、10 日間の交流でできた友達、そして近いけれどあまり知らなかった台湾という国の文化などを少しでも知ることができたことが、私にとってとても貴重な経験となり、この経験を今後の学生生活や将来につなげられたらと思いました。

プログラム中、朝から夜までチューターさんが常に一緒に行動してくれたおかげで、安心して行動できましたし、日本では体験できないこともあったので、ぜひ参加して頂けたらと思います。



M.S 日本語日本文学科 2年次生

参加期間： 2017年3月6日～3月15日(10日間)

I. プログラムについて

10日間で、生の日本語教育現場をみたり、実際に教壇に立って教えたり、チューターさんと観光へ行ったり、観光地だけでなく生活圏での台湾の文化を味わったりしました。10日間毎日が大変充実しており、教案で悩んだことも、教壇実習前の緊張でそわそわしたことも、いい経験になりました。教壇実習前日の夜は本番のことで頭がいっぱいで、何度もペアと授業の流れを確認して練習しました。これらを頑張れたのは、一緒に行った友達や台湾の学生、担当の先生の支えがあったからこそだと思います。教える相手が同じ大学生なので、教案のネタも自分が興味のあることを取り入れると、学生も興味をもって聞いてくれるので話しやすいと感じました。

毎日、ホテル滞在以外の時間はチューターさんがずっと一緒にいてくれるので、困ったことはなんでも相談に乗ってくれて安心です。チューターさんは生活の面倒を色々みてくれ、授業中も積極的に参加してくれたので、本当に感謝しています。食事の際、総勢20人でテーブルを囲んだこともあり、賑やかで楽しい生活をおくることができました。最後はお別れするのが悲しく、みんなで泣きあった程です。また会いたいと思う友達が、たくさんできました。

II. 参加希望者へのアドバイス

わたしは人前に立つのが苦手で、ゼミの教師役も得意ではなかったのですが、このプログラムに参加したことで、教壇に立つドキドキ感や授業中のハプニングであたふたしたこと全て含めて、楽しかった、またやりたい！と思えるようになりました。これは参加したみんな同感しています。学生や担当の先生が励ましてくれ、一緒に行った友達と支え合えるので、緊張しすぎなくて大丈夫です。

台湾は食べ物おいしいと思っていましたが、調味料に悩まされることがありました。独特の匂い・味のある料理が苦手で、台湾の学生から「美味しいよ！」と勧められた時にはどうしたらいいか悩みました。そういった時は、現地では食べられないと思ったら一口だけでも味わうと良いと思います。初めは無理をして食べていましたが、そろそろ厳しいと思った時に正直に伝えると、「あ、そうなの。美味しいのに。」くらいで、次からは「これはきっと苦手な料理だよ」と教えてくれるようになりました。その時は少し慣れてきた頃だったので、臭豆腐にチャレンジしてみたり、台湾の家庭料理だよと言われたら一口食べてみたくなったりしました。食べ物ほど文化の違いを感じやすいことはないかと改めて感じました。

